

しずくちゃん便り

NO.23
平成23年
10月28日発行



フォーラムあとがき

地球上には沢山の水が存在しますが、その殆どが海水で、淡水は約2.5%です。その淡水もほとんどが南極と北極の水で、人が使える川・湖・地下の水は約0.8%に過ぎません。私たちの飲み水は、地球から見ると稀有で貴重な存在といえます。

ところで、私たちは家庭で毎日1人あたり約230ℓの水を使用しているそうです。一方、アフリカ地域の家庭水平均使用量は64ℓ、日本の約4分の1です。バケツ1杯の水で体を洗い、バケツ1杯の水で洗濯をする、そういう生活が世界には存在します。

倉本氏の基調講演では、今の私たちのライフスタイルを「当たり前の暮らし」とみなすことに警鐘を鳴らしていました。水を今までのように使っていてよいのか、川や森はこのままでよいのかと問いかけられているようでした。水資源や森林資源の尊さを今一度再認識させられたフォーラムでした。

県民会議委員 木下 奈穂

DVDの貸出を行います!



水源環境の保全・再生に係る第1期の取組状況や実施成果をまとめた、広報用DVD「かながわの水源環境の保全・再生をめざして — 特別対策事業の取組と成果 —」の貸出を行っています。

ご希望の方は、ファックス、またはフォームメール (<http://www.pref.kanagawa.jp/div/0517/>) よりお申し込みください。

記載事項

1. 氏名 (ご担当者名)
2. 希望貸出開始日・返却予定日 (2週間以内)
3. 住所
4. 貸出・返却方法
(水源環境保全課、もしくは郵送での貸出・返却)
※郵送での返却を希望される場合、送料はご負担いただきます。
5. 連絡先電話番号
6. 使用目的 (個人使用、各種講座での使用など)



送信先

神奈川県 水源環境保全課 調整グループ宛 ファックス番号：045-210-8855

発行・編集 水源環境保全・再生かながわ県民会議
 問合せ 神奈川県 環境農政局 水・緑部 水源環境保全課 調整グループ
 横浜市中区日本大通1 TEL (045) 210-4352 (直通)
 ホームページ かながわの水源環境の保全・再生をめざして
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f7006/>



皆様のご意見・ご感想をお待ちしております

かながわ 水源環境保全課

検索

いのち輝く水を次世代に引き継ぐために

— 第13回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラムを開催しました —



<県民フォーラムの概要>

- 実施日時 平成23年8月27日 土曜日 13:30～16:40(開場12:30)
- 会場 はまぎんホール ヴィアマール(横浜市西区)
- テーマ いのち輝く水を次世代に引き継ぐために
- 内容
 - ・基調講演 倉本聡 「当たり前の暮らしを求めて」
 - ・水源環境保全・再生事業と第2期実行5か年計画(案)について 神奈川県水源環境保全課
 - ・パネルディスカッション
- 主催 神奈川県、水源環境保全・再生かながわ県民会議



私たちのいのちを育み、生活を支える飲水の約9割は、相模川と酒匂川の2つの河川によって賄われており、その大半は4つのダムにより確保されています。これらのダムに貯えられる水の恵みは、上流域の森林や河川などの水源地域の自然環境によって育まれるものです。

神奈川県では、この大切な水源を将来にわたり守るため、平成19年度から個人県民税の超過課税(通称：水源環境保全税)を財源(年間約38億円)として、森林や河川、地下水の保全・再生等の事業に取り組んでいます。

水源環境をとりまく問題とその取組を広く県民に伝え、共に考えることを目的として、水源環境保全・再生かながわ県民会議では、これまで12回の県民フォーラムを県内各地で行ってきました。

13回目となる今回は、8月の猛暑の中、黒岩神奈川県知事も参加され、361人という過去最高となる人々を迎えて横浜で行われました。

ドラマ「北の国から」の脚本・監督で知られる倉本聡氏の基調講演を始め、5人の専門家によるパネルディスカッションでの活発な議論等が繰り広げられました。また、県からの事業説明では、特別対策事業の取組と成果をまとめたDVDが用いられ、参加者からは「専門的知識のない一般県民にも解り易かった」と好評でした。

※水源環境保全・再生かながわ県民会議とは、水源環境保全税を使って行う施策に県民意見を反映させるために県が設置した組織です。一般県民・学識者など30名からなり、市民団体への支援や県民フォーラムの開催、事業モニターなどを実施しています。このニュースレターは、委員が現地に行き、県民の目線で事業をモニターした結果や、県主催のイベントに参加した結果などを、皆様に分かりやすくお伝えするものです。



神奈川の水と森を守るために 参加者361名が、みんなで学び、考えました!

● 当日プログラム ●

- 13:30 開会
主催者挨拶 水源環境保全・再生かながわ県民会議座長 堀場勇夫
- 13:40 基調講演
「当たり前の暮らしを求めて」 講師：倉本 聡
- 14:50 「水源環境保全・再生事業の説明」DVD上映
- 15:10 第2期実行5か年計画(案)の説明
神奈川県水源環境保全課
- 15:30 挨拶 神奈川県知事 黒岩祐治
- 15:35 パネルディスカッション
「いのち輝く水を次世代に引き継ぐために」
～水源環境保全・再生の第2期の取組に向けて～
- コーディネーター
木平勇吉(東京農工大学名誉教授)
- パネリスト
古米弘明(東京大学大学院工学系研究科教授)
山田 健(サントリーホールディングス(株)エコ戦略本部長
シニアスペシャリスト)
高井 正(東京市政調査会主任研究員)
勝山輝男(生命の星・地球博物館学芸員)
- 16:40 閉会
※閉会后 抽選会
(倉本氏サイン入り著書をプレゼント!!)



黒岩知事▶

個人県民税の超過課税による 水源環境保全・再生への取組

※12の特別対策事業

- 1 水源の森林づくり事業の推進
- 2 丹沢大山の保全・再生対策
- 3 溪畔林整備事業
- 4 間伐材の搬出促進
- 5 地域水源林整備の支援
- 6 河川・水路における自然浄化対策の推進
- 7 地下水保全対策の推進
- 8 県内ダム集水域における公共下水道の整備促進
- 9 県内ダム集水域における合併処理浄化槽の整備促進
- 10 相模川水系流域環境共同調査の実施
- 11 水環境モニタリング調査の実施
- ⑫ 県民参加による水源環境保全・再生のための新たな仕組みづくり

(○印は今回の対象事業)



県は、平成19年度から個人県民税の超過課税を、納税者一人当たり平均して年額約950円ご負担いただき、これによって、森林の保全・再生のほか、河川や地下水の保全・再生、ダム集水域での生活排水対策など「かながわ水源環境保全・再生実行5か年計画」(計画期間：平成19～23年度、事業費約190億円)に位置付けた12の特別対策事業※を推進しています。



▲主催者挨拶 堀場座長



▲県による第2期計画(案)の説明

● 基調講演 ●

「当たり前の暮らしを求めて」 倉本 聡



「北海道のある地域。そこは湧水の多い土地だった。しかしある時、何百年も湧き続けていた水が一齐に枯れた。上流の山間部の森林の伐採に起因すると推測されたがすでに打つ手はなかった。森林がもたらす資源は木材だけではない。水と空気は健全な森林があってこそ供給されるもの…」

倉本氏のお話は、一般県民にも非常に解りやすく、ご自身の体験を通してのからこそ生まれる臨場感があり、観客は皆、引き込まれるように聞き入っていました。

私たちが「当たり前」と思う暮らしを求めてきたことにより、これまでどれだけ多くのものを犠牲にしてきたか、今一度振り返るべきではないかという、力強いメッセージ性に富んだ基調講演でした。

【参加者からのコメント】

倉本氏のお話によると、日本の森林の公益評価額はなんと76兆円！これには驚きました。
水・空気の供給と治山効果。台風被害の多い日本で、森林は防災にも重要な役割を果たしているのです。



● パネルディスカッション ●

いのち輝く水を次世代に 引き継ぐために

～水源環境保全・再生の第2期の取組に向けて～



今年度は、平成19年度から始まった「かながわ水源環境保全・再生実行5か年計画」の最終年度です。

パネルディスカッションでは、コーディネーター及び4名のパネリストがそれぞれの専門的立場から水源環境保全・再生のための取組について意見を出し合い、第2期計画に向けた様々な議論を展開しました。

【主な意見】

- 森林整備とシカの管理捕獲は相反する課題です。縦割り行政を改め、双方を一体的に取組む必要があると考えます。
- 山梨県の桂川流域からの生活排水が、桂川を通じて相模川に流れ込み、神奈川県民の飲み水の水質を悪化させる要因となっています。窒素・リンまで除去する高度浄化処理を山梨県内で行うべきだと思います。
- 水源環境の現場を多くの県民に見てもらい、同時に、若い世代にも関心を持ってもらいたいです。



Q. パネルディスカッションの中で話題が上がった、広葉樹を枯らす怖い虫とは、どのような虫なのでしょうか？

A. 「カシノナガキクイムシ」(通称：カシナガ)

米粒ほどの甲虫で、カシ、シイ、ナラなどのブナ科樹種に寄生し、枯死させます。大木を好んで寄生する性質があり、森林荒廃に伴い、山間部で手入れされずに弱った大木で繁殖します。

林野庁によると、カシナガの被害は1980年代から全国的に広がっており、この5年間で被害量は5倍に増加したとのこと。

